

下水道部資料

部 名	ページ 番 号	資 料 名	要求委員名			
下 水 道	1	過去5年間の下水道使用料の不納欠損の件数及び金額	後藤			
下 水 道	2～12	過去5年間の浸水被害状況及び対策	竹村			
下 水 道	13	過去5年間の主な水路の不法占用件数	後藤			
下 水 道	14～15	過去5年間の主な浸水対策事業一覧	矢野			
下 水 道	16	下水道部における耐用年数を超えた管渠及び施設の改良計画	矢野			

過去5年間の下水道使用料の不納欠損の件数及び金額

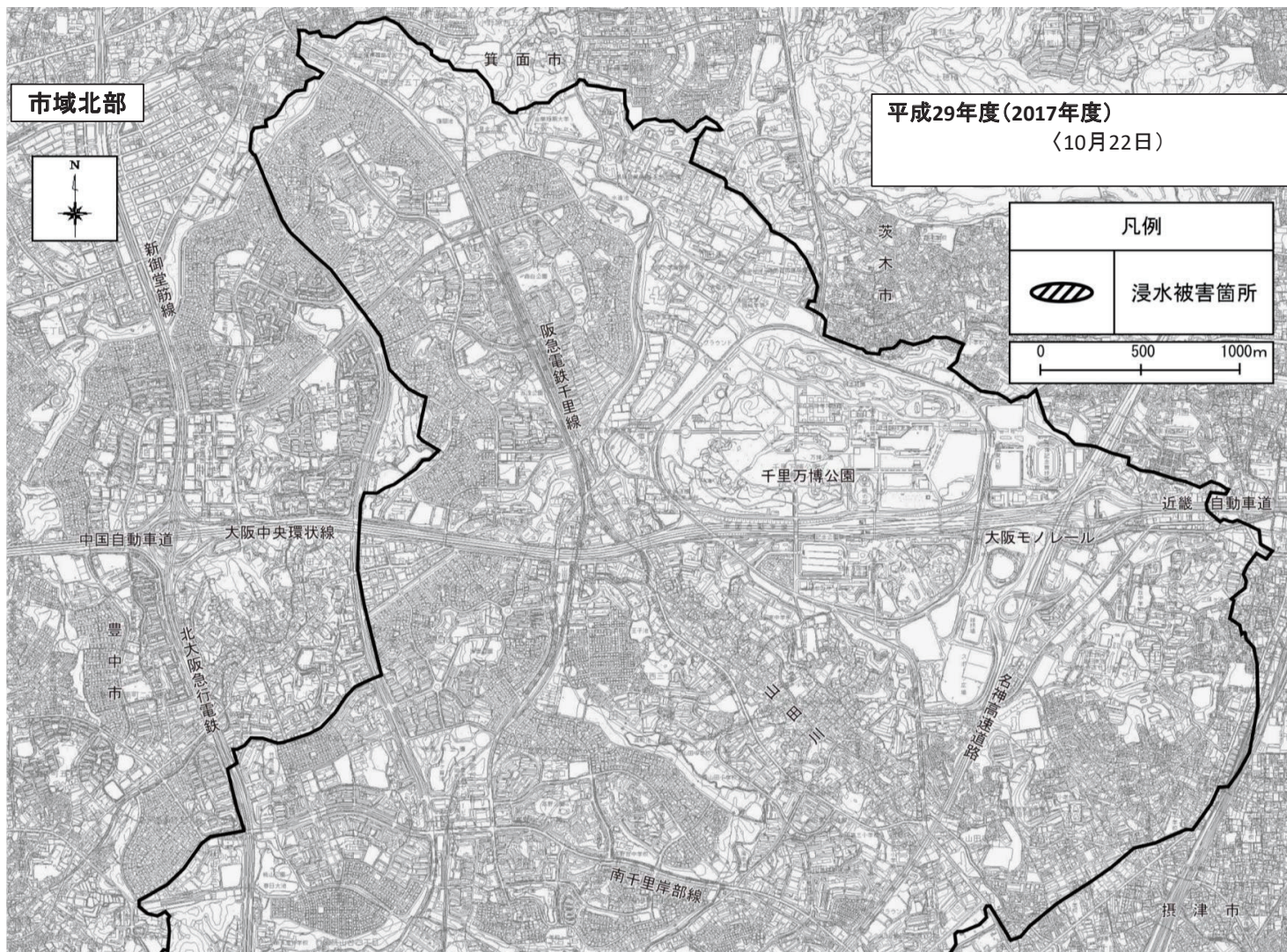
年度	時効		破産等		合計	
	件数(件)	金額(円)	件数(件)	金額(円)	件数(件)	金額(円)
平成29年度 (2017年度)	565	941,523	11	23,635	576	965,158
平成30年度 (2018年度)	824	2,711,505	23	65,616	847	2,777,121
令和元年度 (2019年度)	597	1,095,603	56	309,110	653	1,404,713
令和2年度 (2020年度)	549	994,930	23	142,683	572	1,137,613
令和3年度 (2021年度)	476	1,101,910	25	131,670	501	1,233,580

過去5年間の浸水被害状況及び対策 No.1

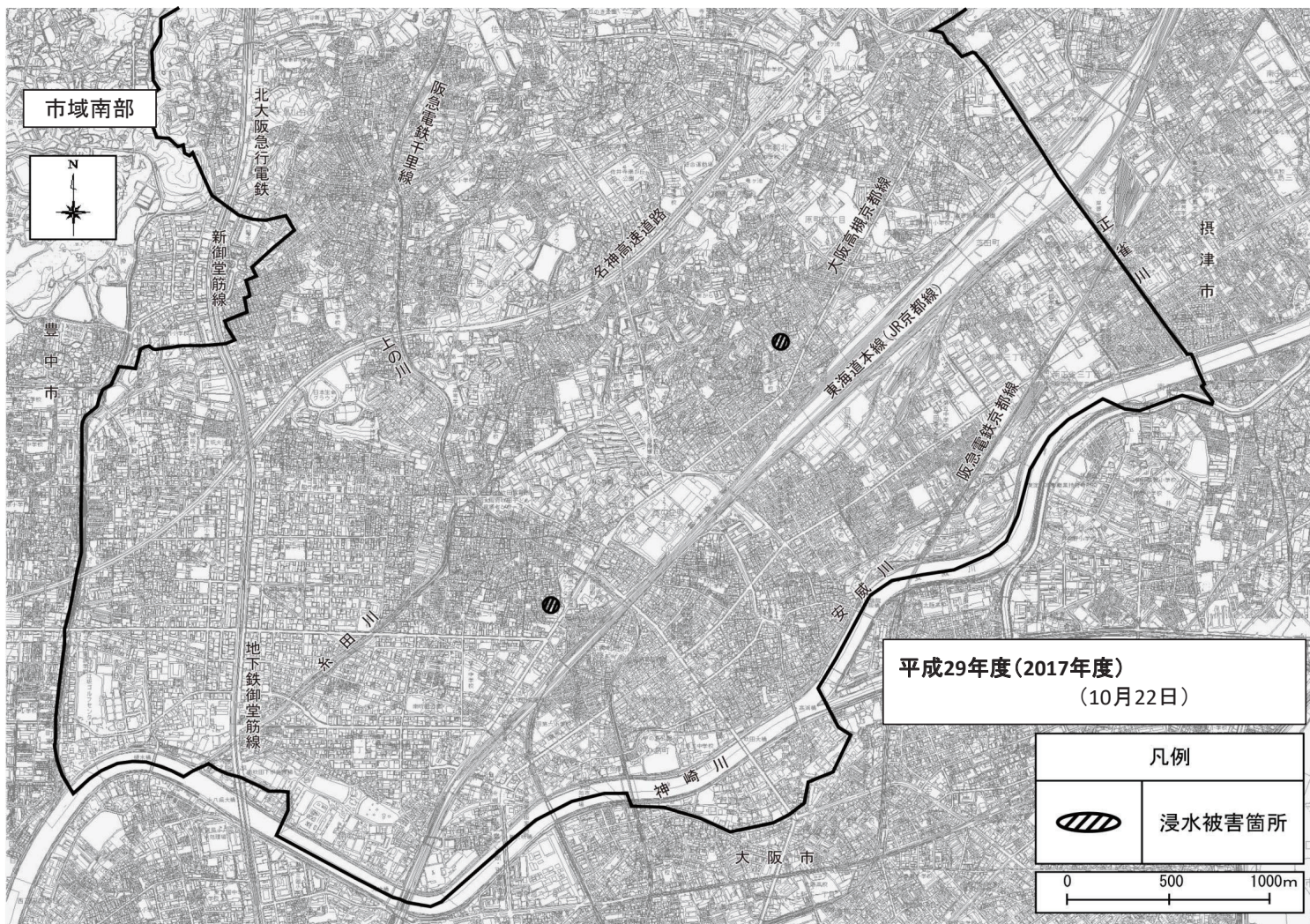
発生年月日		被害状況	件数	浸水被害箇所	主な浸水対策
平成29年 (2017年)	10月22日	民家床下浸水	2	片山町(2件)	土のう積立、雨水柵清掃、管渠整備
		地下施設浸水	1	泉町	(宅内排水ポンプの故障)
平成30年 (2018年)	7月5日	地下施設浸水	1	千里万博公園	逆止弁設置、管渠整備中
	7月6日	民家床下浸水	3	千里山月が丘、円山町、岸部中	雨水柵清掃等
		店舗等の床浸水	2	朝日町、原町	(宅内柵つまり等)
		地下施設浸水	1	泉町	雨水柵設置
9月4日	店舗等の床浸水	1	芳野町	(隣接地からの溢水)	
令和元年 (2019年)	7月17日	民家床下浸水	2	泉町(2件)	雨水柵設置、人孔改修
		店舗等の床浸水	1	高浜町	逆止弁設置
令和2年 (2020年)	7月8日	民家床下浸水	1	泉町	側溝設置(土木部)
		店舗等の床浸水	1	長野東	雨水柵清掃
令和3年 (2021年)	5月21日	地下施設浸水	1	千里丘下	雨水柵改修
	7月18日	民家床下浸水	1	千里丘下	雨水柵改修

※道路冠水を除く

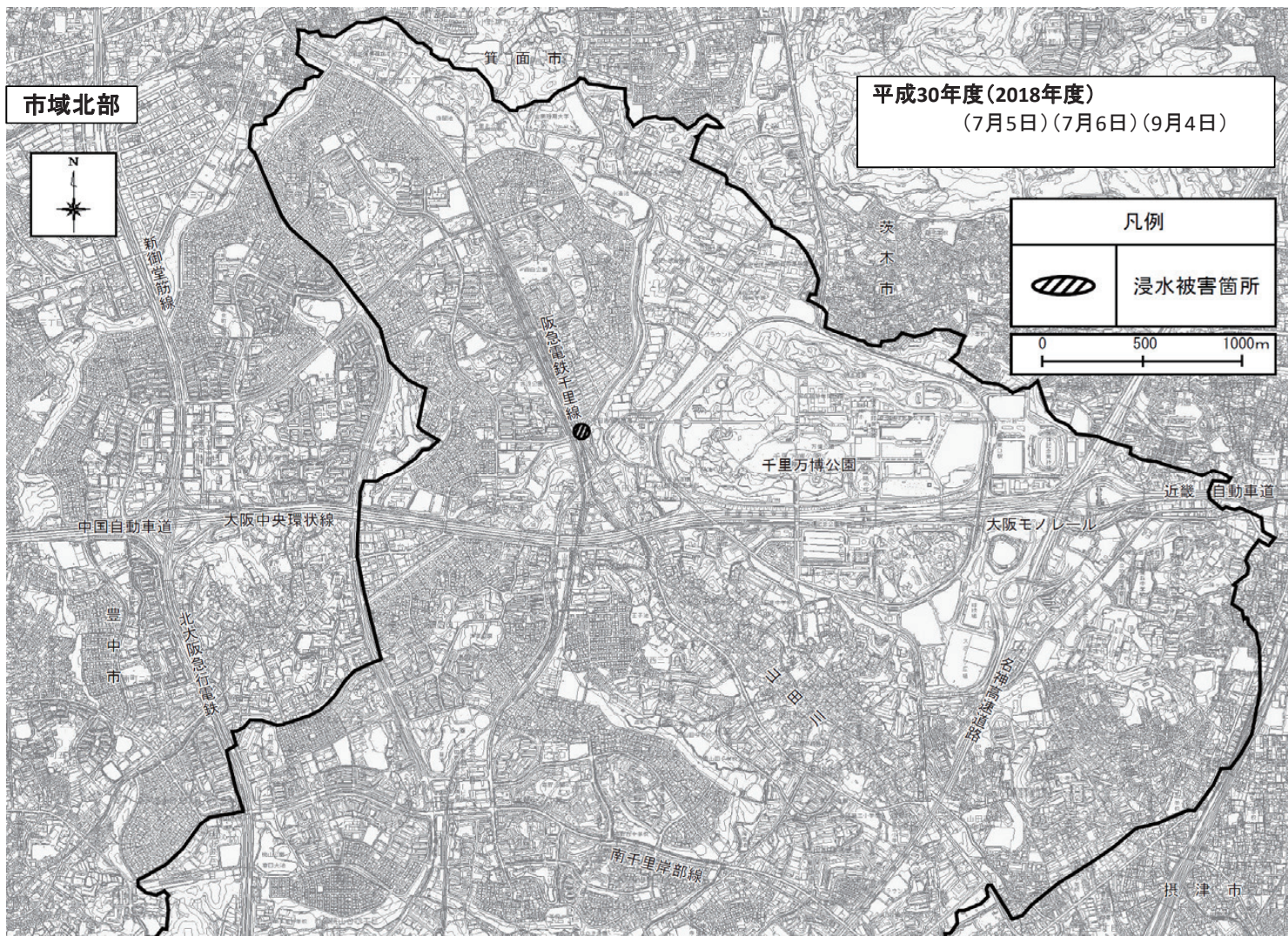
過去5年間の浸水被害状況及び対策 No.2



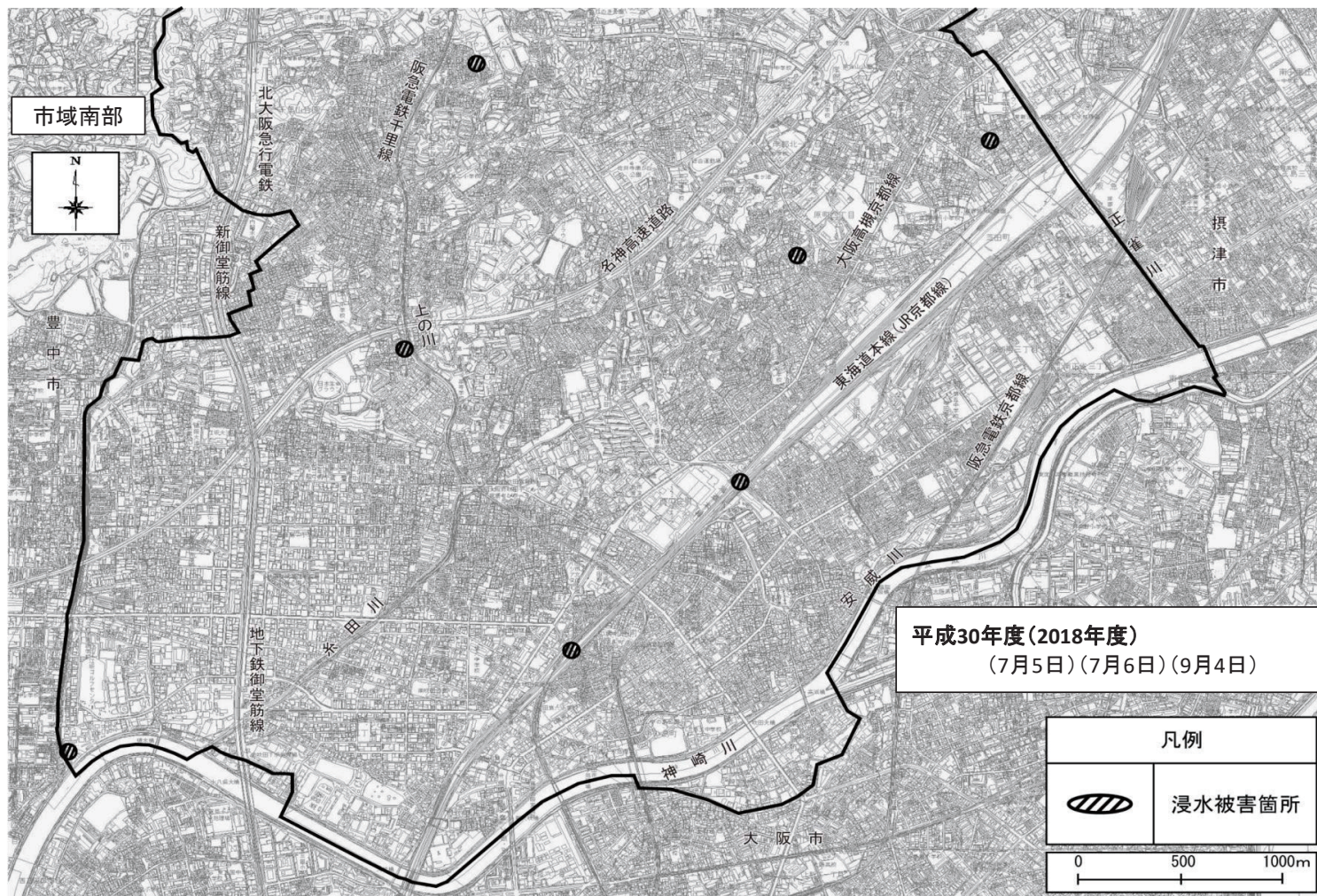
過去5年間の浸水被害状況及び対策 No.3



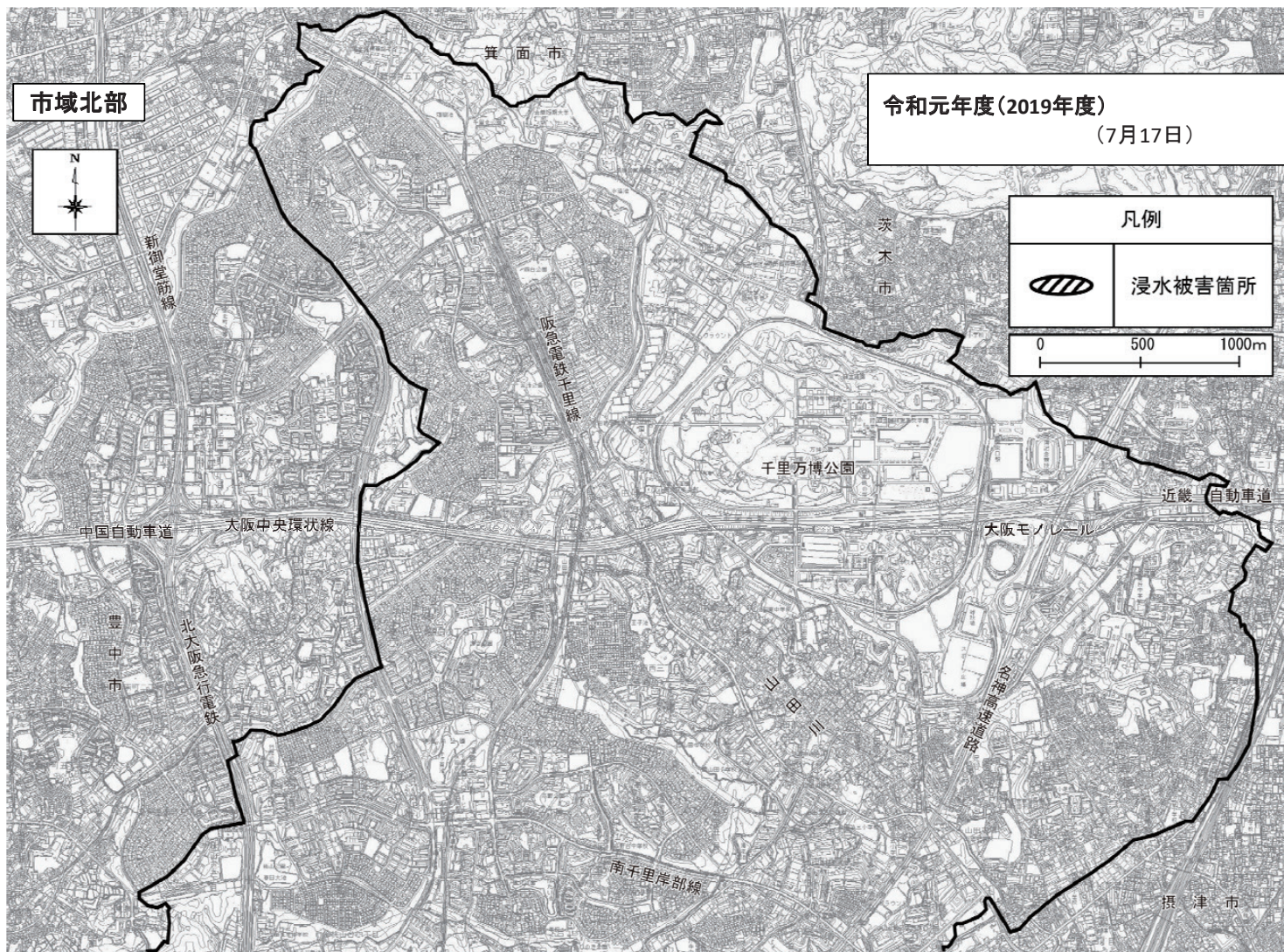
過去5年間の浸水被害状況及び対策 No.4



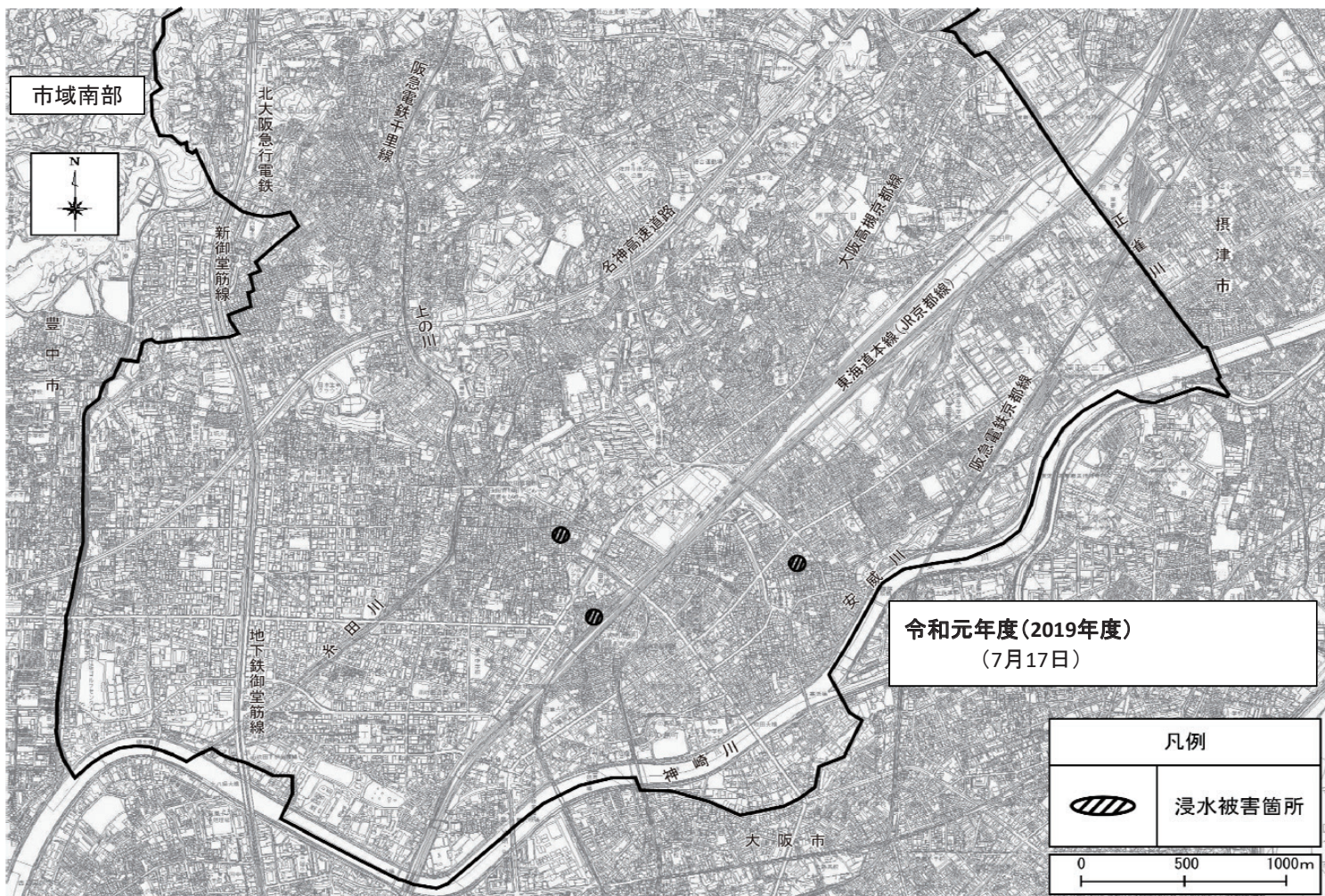
過去5年間の浸水被害状況及び対策 No.5



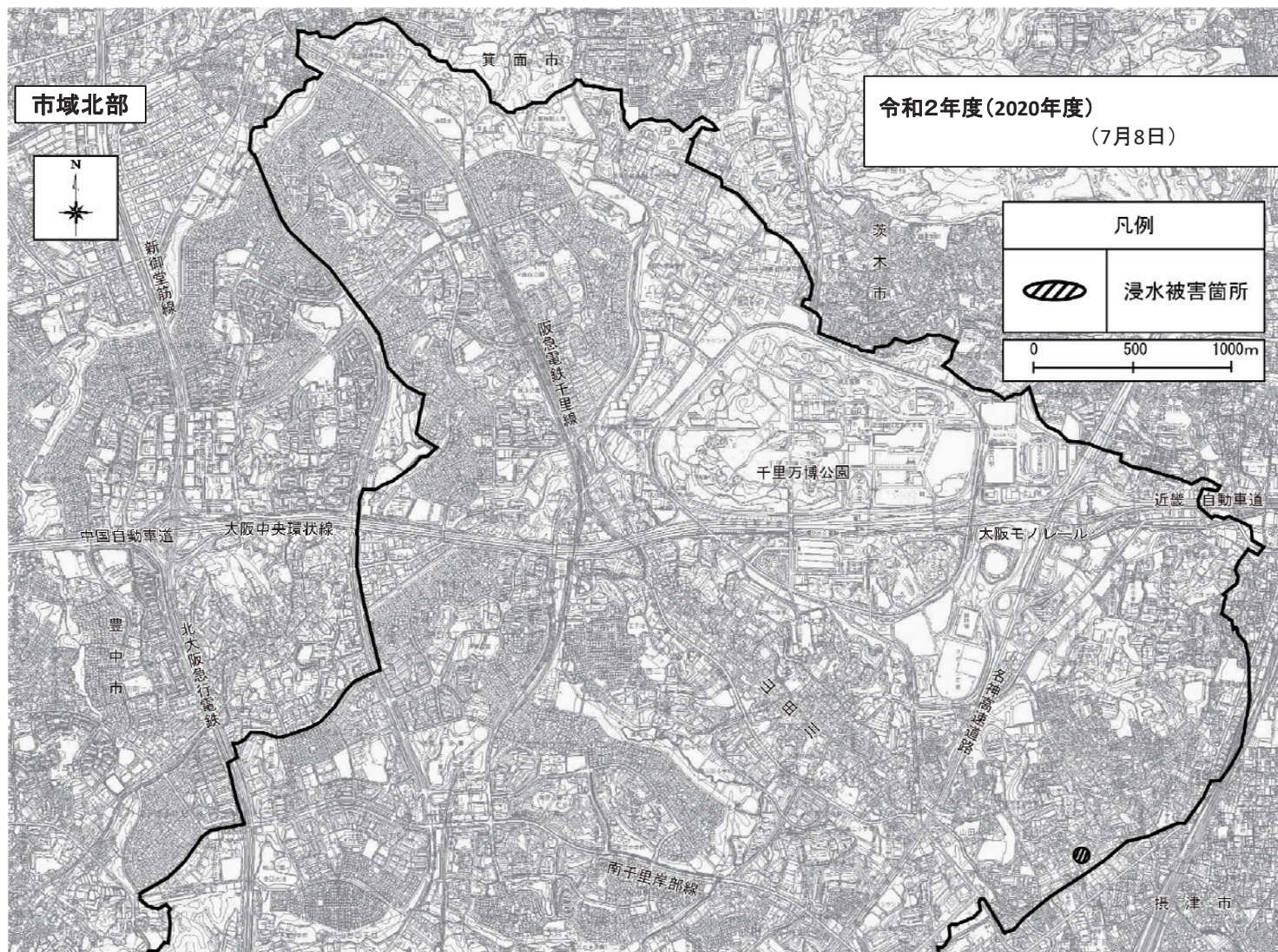
過去5年間の浸水被害状況及び対策 No.6



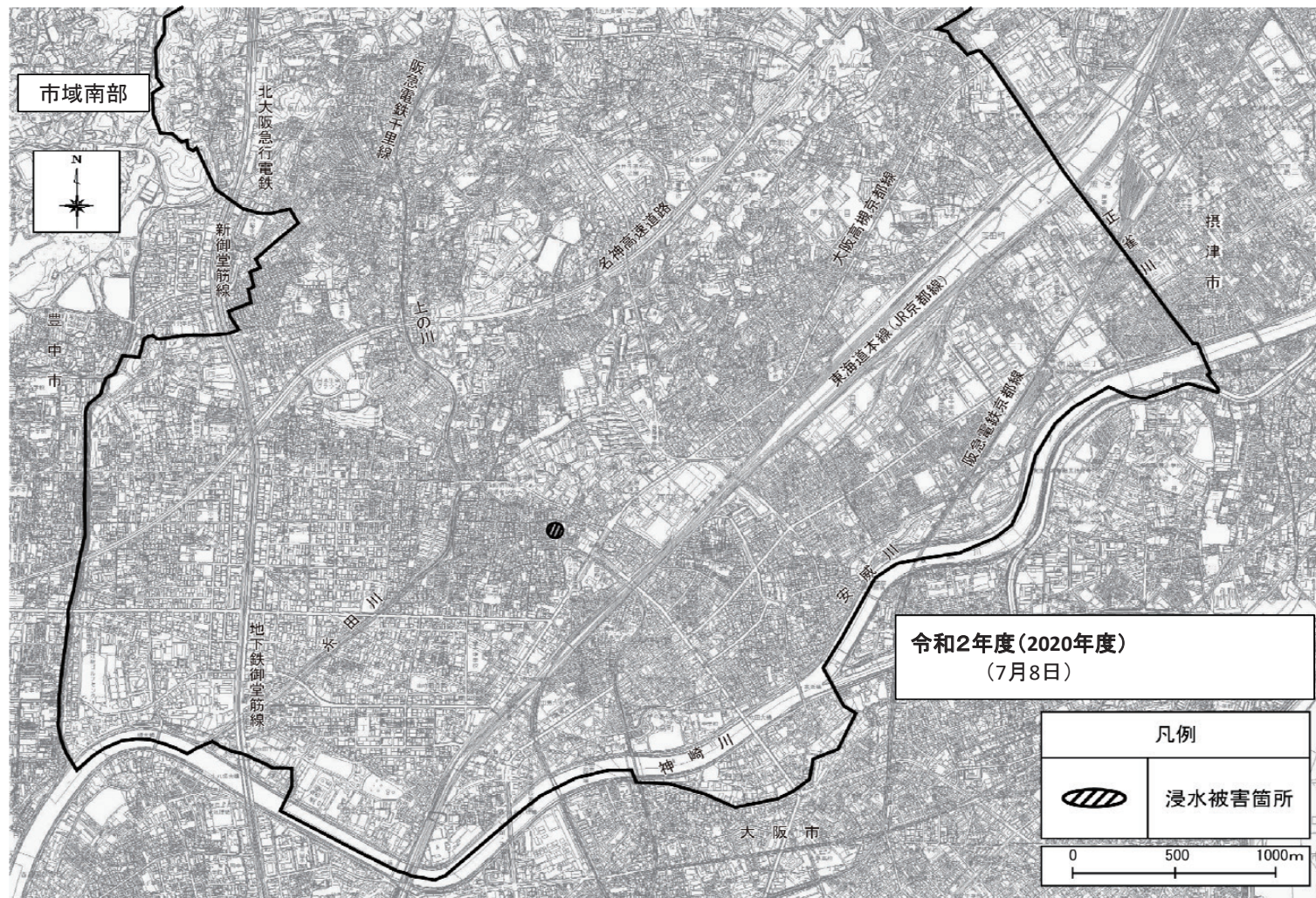
過去5年間の浸水被害状況及び対策 No.7



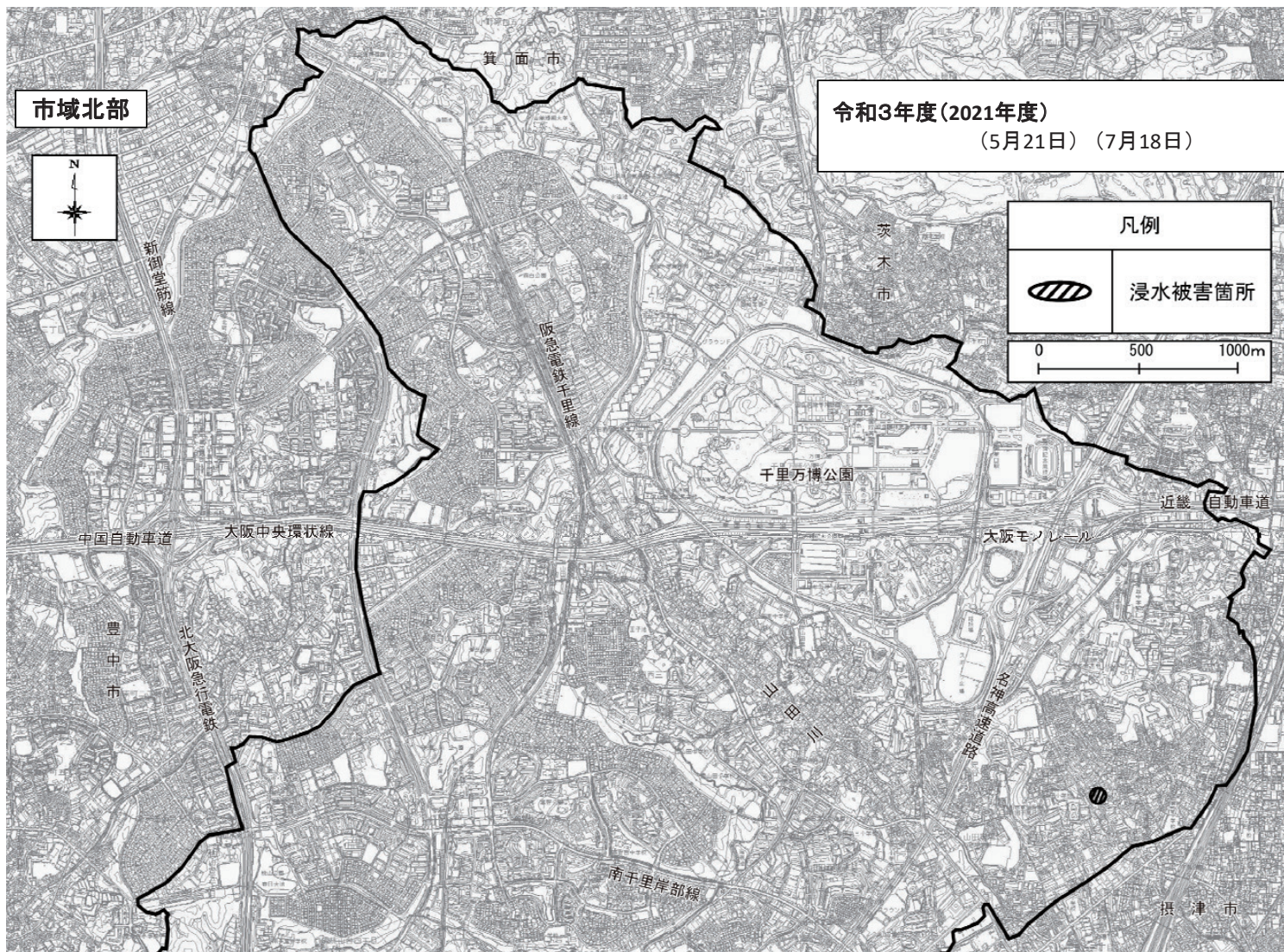
過去5年間の浸水被害状況及び対策 No.8



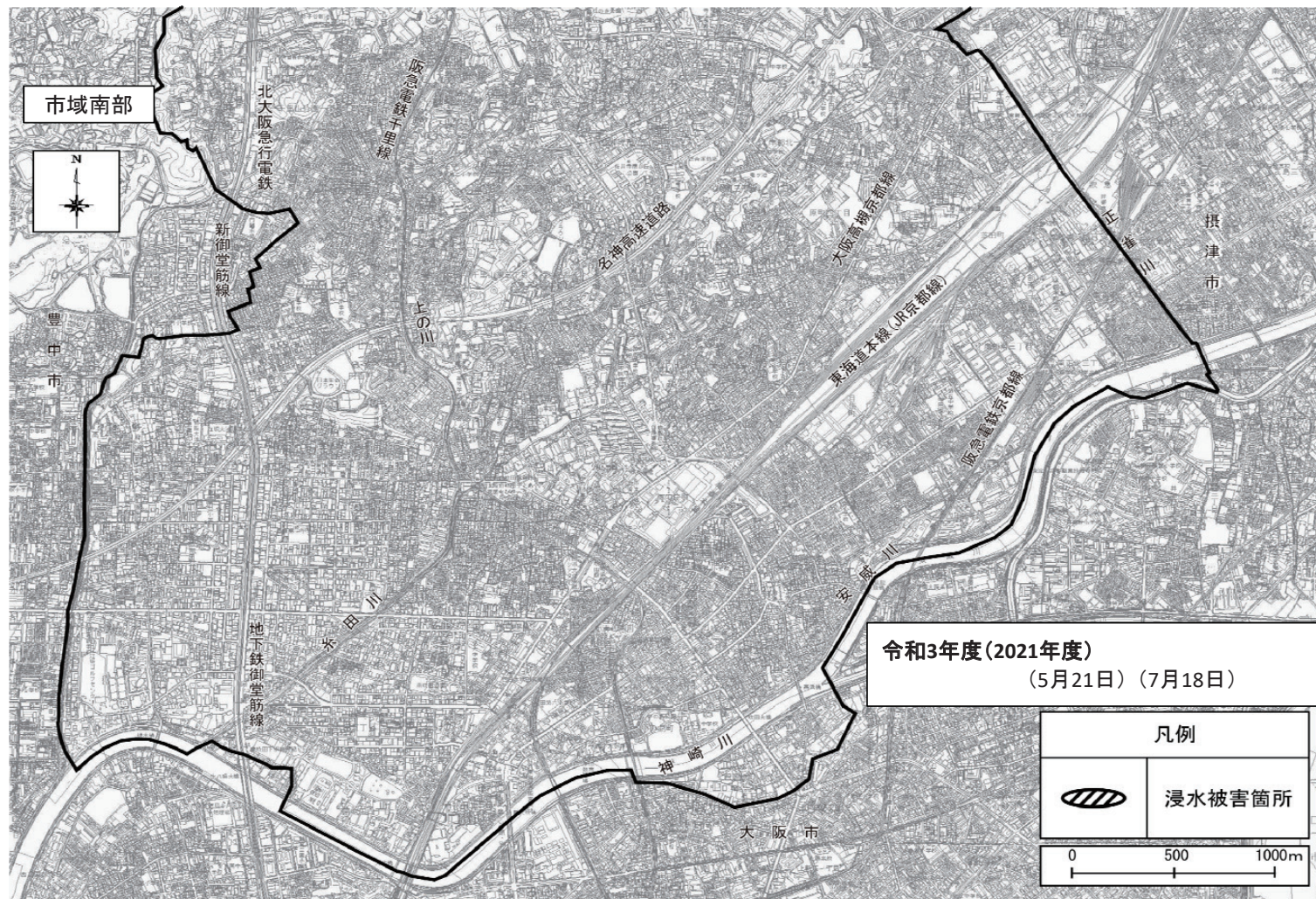
過去5年間の浸水被害状況及び対策 No.9



過去5年間の浸水被害状況及び対策 No.10



過去5年間の浸水被害状況及び対策 No.11



過去5年間の主な水路の不法占用件数

(単位:箇所)

年度	平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)
件数	95	91	85	83	79

滞納件数及び金額はゼロです

過去5年間の主な浸水対策事業一覧 No. 1

年度	工事名	場所	工期	契約金額(円)	工事概要	令和3年度(2021年度)未進捗率(%)
平成29年度(2017年度)	雨水レベルアップ整備工事 中の島・片山第1工区	中の島町地内ほか	平成28年9月29日(2016年) ~ 令和3年9月30日(2021年)	3,954,514,300	φ2800mm L=2703.00m	100
	雨水レベルアップ整備工事 中の島・片山第2工区	内本町2丁目地内ほか	令和2年5月29日(2020年) ~ 令和5年7月31日(2023年)	1,217,793,500	φ800mm~φ1650mm L=367.45m	40
	雨水レベルアップ整備工事 中の島・片山第3工区	西の庄町地内ほか	令和2年5月29日(2020年) ~ 令和5年9月29日(2023年)	1,240,149,900	φ800mm~φ1200mm L=248.65m	45
令和3年度(2021年度)	千里山排水区雨水管路整備工事第101工区	千里山高塚地内	平成29年9月1日(2017年) ~ 平成30年4月27日(2018年)	46,394,640	φ250mm~φ450mm L=123.50m	100
	山田排水区雨水管路整備工事第101工区	山田北地内	令和元年5月16日(2019年) ~ 令和2年1月24日(2020年)	27,486,800	□1000×1000mm φ500・φ1000mm L=68.75m	100
	千里山排水区雨水管路整備工事第101工区(上の川治水対策)	千里山西1丁目地内	令和2年6月5日(2020年) ~ 令和4年6月30日(2022年)	565,863,100	φ1100mm・φ1200mm L=392.05m	99
	山田川排水区雨水管路整備工事第1工区	古江台3丁目地内ほか	令和3年6月2日(2021年) ~ 令和4年2月18日(2022年)	27,742,000	φ300mm・φ500mm L=106.30m	100

工事名	平成28年度(2016年度)	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	令和元年度(2019年度)	令和2年度(2020年度)	令和3年度(2021年度)	令和4年度(2022年度)	令和5年度(2023年度)
雨水レベルアップ整備工事 中の島・片山第1工区	■							
雨水レベルアップ整備工事 中の島・片山第2工区					■			
雨水レベルアップ整備工事 中の島・片山第3工区					■			
千里山排水区雨水管路整備工事第101工区		■						
山田排水区雨水管路整備工事第101工区				■				
千里山排水区雨水管路整備工事第101工区(上の川治水対策)					■			
山田川排水区雨水管路整備工事第1工区						■		

複数年の契約工事

過去5年間の主な浸水対策事業一覧 No. 2

年 度	土のう		止水板	
	要請件数（箇所）	配付数（袋）	設置件数（箇所）	助成金額（円）
平成29年度 (2017年度)	60	1,777	1	83,000
平成30年度 (2018年度)	155	4,055	2	600,000
令和元年度 (2019年度)	56	1,783	1	300,000
令和2年度 (2020年度)	57	1,381	1	284,000
令和3年度 (2021年度)	51	1,656	0	0

下水道部における耐用年数を越えた管渠及び施設の改良計画

(管 渠)

項目	年 度												
	平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	
1 吹田市下水道 ストックマネジメント実施方針策定													改訂
2 点 検													
3 調 査													
4 診 断													
5 設 計													
6 改 築													

※1 吹田市下水道ストックマネジメント実施方針に基づき、平成30年度(2018年度)から点検を開始。

対象となる管渠の経過年数については、標準耐用年数50年ではなく布設後20年が経過した管渠とし、改築工事量の平準化を図っている。

※2 点検:地上からマンホール内に管口テレビカメラを挿入し、管渠内の異状の有無を確認すること。令和9年度(2027年度)に1サイクル目が完了予定。

※3 調査:点検で異状があった場合、管渠内に潜行する調査員による目視、又は自走式テレビカメラにより、詳細な劣化状況を確認すること。

※4 診断:調査結果を踏まえ、緊急度を判定すること。

※5 設計:診断により改築が必要とされた管渠について、実施設計を行うこと。

※6 改築:管渠の取替え又は管更生工事を行うこと。

(施 設)

耐用年数を越えた施設の改築更新計画は、吹田市下水道ストックマネジメント実施方針に基づき策定しています。

吹田市下水道ストックマネジメント計画(処理場・ポンプ場)につきましては、5年毎に、施設の被害規模ランク(影響度)と発生確率(耐用年数超過率)からリスク評価を行い、点検調査計画を策定します。点検調査計画にて対象とした設備に関して、点検を実施し健全度の低いものから優先的に順位を決定し改築更新計画を策定しております。

水道部資料

部 名	ペー ジ 番 号	資 料 名	要 求 委 員 名			
水 道	1	過去5年間の債権放棄の件数及び金額	後藤			
水 道	2	検針・滞納整理及び電話受付業務の委託内容	矢野			
水 道	3	給水原価の他市比較	矢野			
水 道	4	過去5年間の水道施設の耐震化及び経年管の更新状況	竹村			

過去5年間の債権放棄の件数及び金額

年度	項目	件数(件)	金額(円)
平成29年度 (2017年度)		548	2,629,018
平成30年度 (2018年度)		571	2,984,459
令和元年度 (2019年度)		575	3,185,779
令和2年度 (2020年度)		454	2,806,569
令和3年度 (2021年度)		551	3,848,191

検針・滞納整理及び電話受付業務の委託内容

業務名	具体的な内容
検針業務	水道メーター定例検針
	水道使用中止に伴う水道メーター精算検針
	高齢者世帯声かけサービス
滞納整理業務	水道料金等未納に対する催告
	水道料金等滞納者に対する給水停止及び解除
	水道料金等の収納
	現地精算
電話受付業務	水道料金に関する電話及び窓口対応
	水道使用開始及び中止、名義変更等の受付
	納入通知書の発行

給水原価の他市比較

1 令和3年度（2021年度）の給水原価

吹田市
136.5 円/m ³

2 大阪市及び北摂6市の給水原価

大阪市	豊中市	高槻市	茨木市	箕面市	池田市	摂津市
134.6 円/m ³	153.6 円/m ³	126.8 円/m ³	139.3 円/m ³	151.3 円/m ³	176.2 円/m ³	176.8 円/m ³

3 その他の給水原価（平均）

類似団体 ^(注)	全国	大阪府内	給水人口 30万人以上
126.9 円/m ³	166.4 円/m ³	144.8 円/m ³	153.7 円/m ³

(注) 類似団体・・・給水人口30万人以上50万人未満、自己水比率30%以上100%未満で水道事業ガイドラインによる業務指標（JWWA Q100：2016）を公表している8事業体（福山市、一宮市、横須賀市、高崎市、前橋市、倉敷市、豊橋市及び高槻市）

※2及び3の値は、全て令和2年度（2020年度）実績値

過去5年間の水道施設の耐震化及び経年管の更新状況

事業種別 \ 年度	平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和11年度 (2029年度)
	実績	実績	実績	実績	実績	目標年度
施設耐震化工事	片山浄水所 (水処理施設)	片山浄水所 (水処理施設) 津雲配水場 (場内管)	片山浄水所 (水処理施設) 津雲配水場 (場内管) 泉浄水所 (部庁舎本館)	片山浄水所 (水処理施設) 津雲配水場 (場内管)	片山浄水所 (場内管) 津雲配水場 (場内管)	—
配水池耐震施設率	90.3%	90.3%	90.3%	90.3%	90.3%	—
$\frac{\text{耐震対策の施されている配水池容量(m}^3\text{)}}{\text{配水池総容量(m}^3\text{)}}$	$\frac{55,613}{61,613}$	$\frac{55,613}{61,613}$	$\frac{55,613}{61,613}$	$\frac{55,613}{61,613}$	$\frac{55,613}{61,613}$	—
基幹管路整備工事	3,918m	991m	2,272m	5,018m	1,955m	—
基幹管路の耐震化率	41.9%	42.4%	43.9%	47.2%	47.7%	—
$\frac{\text{耐震基幹管路延長(m)}}{\text{基幹管路総延長(m)}}$	$\frac{33,734}{80,561}$	$\frac{34,219}{80,699}$	$\frac{36,414}{82,915}$	$\frac{41,234}{87,413}$	$\frac{42,079}{88,128}$	—
基幹管路の耐震適合率 ^{※1}	48.0%	48.5%	49.9%	52.8%	53.3%	65.0%
$\frac{\text{耐震適合性のある基幹管路延長(m)}}{\text{基幹管路総延長(m)}}$	$\frac{38,670}{80,561}$	$\frac{39,149}{80,699}$	$\frac{41,357}{82,915}$	$\frac{46,144}{87,413}$	$\frac{46,967}{88,128}$	—
管路の更新率 ^{※2}	1.21%	0.91%	1.44%	1.68%	1.35%	1.20%
経年化管路率	37.3%	37.7%	38.0%	38.0%	38.0%	40.0%
$\frac{\text{法定耐用年数(40年)を超えた管路延長(m)}}{\text{管路総延長(m)}}$	$\frac{269,254}{722,737}$	$\frac{273,584}{725,888}$	$\frac{276,841}{729,198}$	$\frac{279,213}{734,414}$	$\frac{280,354}{737,792}$	—

※1 基幹管路の耐震適合率・・・基幹管路（導・送・配水本管）のうち、耐震管及び布設された地盤条件などを勘案して耐震性能が高いと評価された継手を有するダクタイル鋳鉄管の割合。

※2 管路の更新率・・・（更新された管路延長/管路総延長）×100